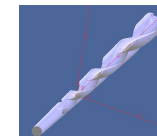


drill

2014年9月19日
第14回FrontISTR研究会

目次

- ▶ ねらい
- ▶ 入力データの確認
 - ▶ 計算サーバ上のファイル
 - ▶ REVOCAPの利用
- ▶ 線形静解析
 - ▶ 逐次解析
 - ▶ 並列解析（領域分割を含む）（←16プロセッサ以上で実施）
 - ▶ 結果の確認



ねらい・入力データの確認

■ 比較的小規模な例題を用いて一連の計算手順を体験する

- 1,700,262節点、9,895,566要素、四面体1次要素

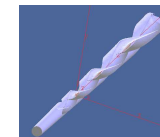
■ 計算サーバ上のファイル

- drill/P01 ~ P16
- FrontISTRの入力データ、実行シェルスクリプト
- パーティショナの入力データ、実行シェルスクリプト

ファイルの中味に関する説明は、スライド「はじめてのFrontISTR」を参照のこと

■ REVOCAPの利用

- WinSCPを用いて、端末PCに `foo.msh`と`foo.cnt`を転送
- REVOCAPを用いて、モデル形状、メッシュ、境界条件等を確認



線形静解析 (1/3)

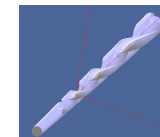
■ 逐次解析

■ 計算サーバ上のファイル conrod/P01

- FrontISTRの入力データ hecmw_ctrl.dat, drill.msh, drill.cnt
- FrontISTRの実行シェルスクリプト run_fistr.sh

■ 計算実行

```
cd ~guest01/drill/P01  
nohup ./run_fistr.sh > stdout_P01 & ←バックグラウンドで実施
```



run_fistr.sh FrontISTRの実行スクリプト

逐次計算

```
#!/bin/sh  
/usr/local/fistr/bin/4.2/fistr1.serial
```

実行モジュール名(逐次版)

線形静解析 (2/3)

■ 並列解析

■ 計算サーバ上のファイル drill/{P02, P04, P08, P16}

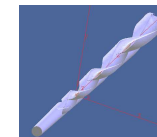
- パーティショナ関係 hecmw_part_ctrl.dat ←分割数を指定する
- パーティショナの実行シェルスクリプト run_part.sh
- FrontISTRの入力データ hecmw_ctrl.dat, drill.msh.0~XX, drill.cnt
- FrontISTRの実行シェルスクリプト run_fistr.sh
- MPI並列計算のためのマシンファイル machines

■ パーティショナの実行

```
cd ~guest01/drill/P16  
./run_part.sh
```

■ 計算実行

```
cd ~guest01/drill/P16  
nohup ./run_fistr.sh > stdout_P16 & ←バックグラウンドで実施
```



run_part.sh パーティショナの実行スクリプト

```
#!/bin/sh  
/usr/local/fistr/bin/4.2/hecmw_part1.serial
```

実行モジュール名



run_fistr.sh FrontISTRの実行スクリプト

並列計算

```
#!/bin/sh  
/usr/local/openmpi-1.4.1-intel64-v11.1.064/bin/mpirun  
-np 4 -machinefile machines /usr/local/fistr/bin/4.2/  
fistr1.openmp
```

実行モジュール名

PBSを用いずに、machinefileで並列計算に用いるノードを記述している例。

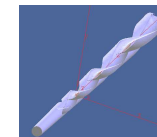


線形静解析 (3/3)

■ 結果の確認

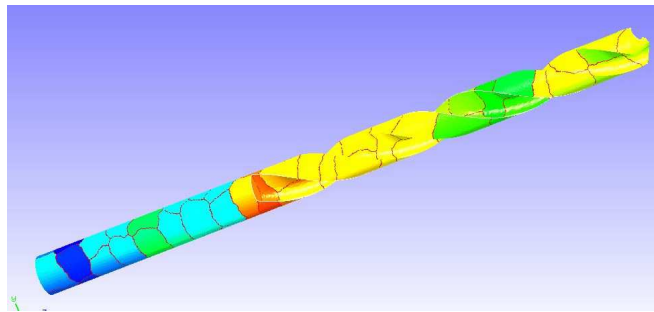
■ REVOCAPの利用

- WinSCPを用いて、端末PCに以下のファイルを転送
 - foo.cnt
 - foo.msh 全体領域のメッシュ
 - foo.res.XX.X 全体もしくは部分領域の結果ファイル
 - foo.inp UCDフォーマットの結果ファイルもしくは領域分割図
- 変形図
- 応力コンター図
- 領域分割図
- 断面表示
- 部分領域のみの表示
- 変形アニメーション



並列性能の評価

- 並列化率 (α)、加速率 (s)、並列化効率 (ε)
- プロセッサ数を変えて計算時間を測定する P48/ や P96/



- アムダールの法則を用いて、並列化率・加速率・並列化効率を推定する

(注意) 加速率、FLOPS値 (対ピーク性能)、計算時間 についての評価を混同してはいけない。

